

デジタルオーラル | 外科治療遠隔成績

デジタルオーラル (II) 91 (P91)

外科治療遠隔成績1

指定討論者:加藤 伸康 (北海道大学大学院医学研究院 循環器呼吸器外科)

[P91-1]ePTFE手作り3弁付き人工導管による右室流出路再建の治療成績

〇辻 重人¹, 小泉 淳一¹, 滝沢 友里恵², 中野 智², 齋木 宏文², 高橋 信², 小山 耕太郎², 猪飼 秋夫³, 金 一¹
(1.岩手医科大学 心臓血管外科, 2.岩手医科大学 小児科, 3.静岡県立こども病院 心臓血管外科)

Keywords:右室流出路再建, ePTFE graft, 小口径

【背景】当院では右室流出路再建の選択導管として、ePTFEによる手作り3弁付き人工導管を採用している。口径別の治療成績を検討した。【方法】2007年4月～2019年12月まで、ePTFE手作り3弁付き人工導管で右室流出路再建術を施行した44症例を後方視的に検討した。全例 ePTFE graft+0.1mm ePTFE sheetで弁作成を行った。10～14mmを小口径 (S群)、16～18mmを中口径 (M群)、20～24mmを大口径 (L群) として、群別に早期 / 遠隔期死亡率、術後 PR / PS回避率、導管交換回避率を評価した。【結果】PAVSD 25例、DORV / PS 5例、TOF 4例、ccTGA 3例、TGA (III) 3例、その他4例、MAPCA合併13例であった。S群6例 (14%)、M群21例 (48%)、L群17例 (39%) であった。群別の介入時期と体重の中央値は、S群で5.5カ月 (0～108カ月) / 4.0kg (2.4～6.3kg)、M群で12カ月 (8～108カ月) / 9.0kg (6.8～21kg)、L群で120カ月 (7～408カ月) / 23kg (13.6～62.2kg) であった。早期死亡例なし、遠隔期は S群で非手術関連死亡を1例認めた。術後 PR回避率 (mild以下) は S群100% (6/6)、M群86% (18/21)、L群100% (17/17)、術後 PS回避率 (valvular+ peripheral) は S群83% (5/6)、M群48% (10/21)、L群94% (16/17)、導管交換回避率は S群83% / 20.2カ月 (3～53カ月)、M群86% / 76.0カ月 (2～138カ月)、L群94% / 63.4カ月 (19～122カ月) であった。群別では、S群は PTPV 1例、graft交換1例、M群では PTA 6例、PTPV 4例 (平均術後81カ月)、graft交換3例 (平均術後73カ月)、L群では PTA 1例、graft交換1例であった。【結語】小口径も含めて ePTFE手作り3弁付き人工導管は良好な成績であった。小口径は follow-up期間が短く症例数も少ないため、さらなる症例の蓄積が必要である。